

近代化遺産の価値に関する一考察

Study on the value structure of the modernization heritage

熊本大学工学部環境システム工学科

波多江 萌

1. はじめに

近代化遺産はほとんどの専門家が保存を前提としているのに対して、「なぜ保存するのか」という「価値」に対する追及はあまり見られない。また、近代化遺産の価値は学術的な研究者のみで共有され、専門家以外の一般の人々にとって、複雑で難解なものとなっている。本研究では、近代化遺産の価値を考察するために、それに関わる複数の組織から既存の評価を整理し、その価値体系を提案する。そして、価値を分かりやすく表現することで、専門家以外の人々の理解を促し、これを共有できるようにすることが本研究の目的である。

2. 近代化遺産に関する既存の価値の整理

現状の価値付けを把握するために、近代化遺産に関連する各組織や研究者たちの評価及び価値基準を整理した。具体的には、ユネスコ、文化庁などの文化財保護行政と土木学会、

表 1 既存の価値基準（既往研究は除く）

	世界		国内						学会		
価値/遺産	世界	ニジ	重文	記念	文景	重伝	登録	経産	土木	建築	造園
①創造的傑作	○	○	○	○			○		○	○	○
②価値観交流	○		○					○	○	○	
③文化と文明	○	○						○	○		
④歴史の段階	○	○	○	○			○	○	○	○	○
⑤人間と自然	○		○	○	○	○			○		○
⑥関連	○								○		○
⑦学術・観光				○						○	○
⑧技術者								○	○	○	
⑨地域		○						○	○		○
⑩その他										○	

建築学会などの各学術団体および、10 件の既往研究における近代化遺産の評価基準を調査した。その結果、近代化遺産に関する価値は世界遺産の選定基準を参考にして表1の 10 種類に大別することができた。

3. 近代化遺産の価値の分析

近代化遺産の価値構造を提示するために、熊本県下に存在する 10 件の近代化遺産の価値を前章で整理した既存の価値基準を参考にそれぞれの価値を分類した。分類した結果、前章の 10 種類の価値基準は次の6種類に分けることができた。表1中の①⑦⑧は近代化遺産の「普遍的」価値、③④は「歴史的」価値、⑥⑨は「生活」と「記憶」、⑤は「風景」、⑩は「記録」と「魅力」、②は「人と人との関わり」に分類することができた。その後、各々の価値を構造化すると図1のようになり、それぞれの価値は、「本体自体の価値」、「地域における価値」、「情報に関する価値」、「人にに関する価値」の4種類に大別できた。

「地域における価値」は多くの人で共有できるのに対し、「情報に関する価値」は、情報の取得や個人の感性など、個人で感じる価値である。この2つが、近代化遺産の「本体」と「人」とを結んでいる。

4. おわりに

図1より、近代化遺産には様々な価値が相互に関連しあっていることがわかった。現在、多くの人に関心を寄せている、歴史・構造・外観などの構造物中心の価値だけでなく、地域や情報、人の視点からみた価値も重要な価値として存在していることが把握できた。

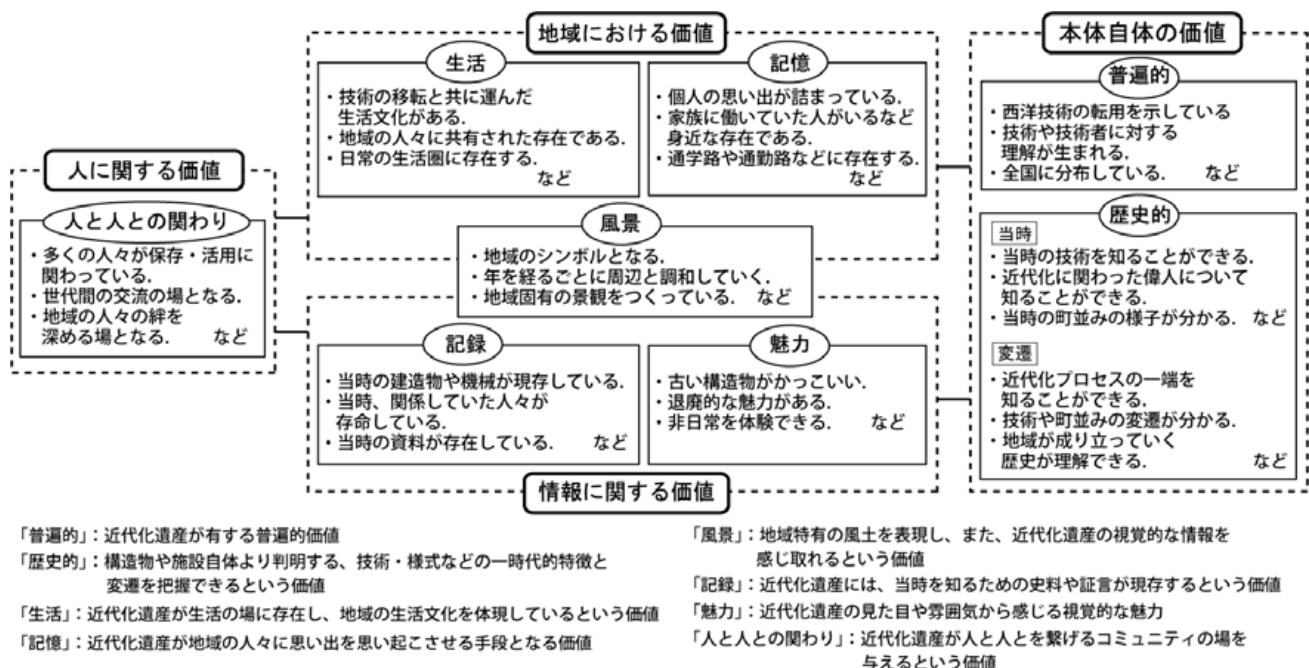


図 1 近代化遺産の価値体系